

KSK

発行 KSK 神奈川県障害者定期刊行物協会  
〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山町1752番地  
障害者スポーツ文化センター横浜ラポール3F 横浜市車椅子の会内

# あゆみ会報

2023年9月号 第193号

編集 湘南あゆみ会  
〒254-0807 平塚市代官町21-4 SEA平塚ビル3F フレンズ湘南内  
TEL/FAX 0463-24-0420  
定価 50円（会員は年会費に含まれています）

## 報 告

### 米村かずひこ県会議員と懇談

8月18日 午前の世話人会に平塚市選出の米村かずひこ県会議員が来会され、短い時間でしたが初めて懇談の時を持ちました。

NPO 法人じんかれんでは毎年6月に神奈川県に対し、また、湘南あゆみ会では毎年10月に平塚市に対してそれぞれ要望書を提出しています。その中で最も重要なのは、重度障害者医療費助成制度を2級手帳所持者にも適用してほしいこと、又交通運賃割引制度を精神障害者にも早く適用してほしいことです。精神科医療においては、精神科特例が完全に廃止されていないため今でも医療従事者数が一般医療より医師は1/2、看護師は1/3と少なく、身体拘束など当事者に対する人権侵害行為が頻繁に行われていること、また障害者年金の等級の決定方法がわかりにくいなど、精神科医療福祉についての重要な問題点をいろいろ情報交換しました。米村議員には再度来会頂く事を約束するとともに、県・市会議員など、様々な方々と懇談の時を持ち、精神科医療福祉の改善に向けて訴えていきたいと考えています。

### 8月サロンあゆみ開催

8月18日午後、2ヶ月に1回の自由交流の時を持ちました。参加者12名

平塚市に提出する要望書の内容について話し合いました。また親亡き後について、成年後見制度の利用について、家族支援について、学校教育の中での精神疾患の予防教育について、滝山病院問題の背景について等など、活発な意見交換が行われ、自由に話し合える場のあることを再認識した

楽しい交流の時となりました。



## これからの予定

### ●じんかれん研修会

#### 家族相談の意義とその対応

講師 みんなねっと事務局長補佐  
高村 裕子氏

精神疾患を持つ方の家族から相談を受けた場合、どう対応したら適切な支援ができるでしょうか。 みんなねっと事務局長補佐の高村裕子氏と一緒にみんなで考えたいと思います。

・日時 10月3日（火）10時～12時

・場所 かながわ県民センター304会議室  
（横浜駅西口 よどばしカメラそば）

\*申し込み不要です。ご都合をつけてお出かけ下さい。どなたでも自由に参加できます。

\*詳細は8月号に同封したチラシをご覧ください。

### ●平塚市福祉会館まつり

10月20日（金）21日（土）

9時30分～16時00分予定

湘南あゆみ会は販売部門と作品展示部門に参加します。

・販売品目 みどり農園産直野菜（里芋 サツマイモなど） 新米はるみ 東北支援昆布 わかめ 柿 そのほか桜草苗 など予定

・作品展示 当事者の方の力作絵画など。

会館内では、会館利用団体のサークル活動作品展示、お茶席、カラオケ団体の発表、障害者団体

の作品展示・販売など様々な活動を見ることができます。是非この機会にお出かけ下さり、お楽しみ頂けますように。

＊＊販売のお手伝いをして下さる方 おられましたらお知らせ下さい。（午前の部 午後の部）

TEL 090-3519-8692 谷田川まで

＊＊臨時駐車場あり 浅間緑地＊＊

## 作品募集！！

福祉会館まつりに展示する作品を募集します。当事者の方々 ふるってご応募下さい。

条件：初めて発表するもの

絵画 手芸作品など

大きさ 自由

一人1点

募集締め切り 10月10日（火）

連絡先 谷田川まで 090-3519-8692



## 10月サロンあゆみ お休みのお知らせ！

10月20日（金）のサロンあゆみは、福祉会館まつりと重なるため、お休みとさせていただきます。ご注意ください。

11月17日（金）のサロンあゆみは予定通り行ないます。心理勉強会となります。ご予約にいらしていただけますように。

## ●NPO 法人じんかれん主催

### 第49回『県民の集い』 in 小田原 ピアサポートの輪をひろげよう！ 仲間があなたを支えます

日時 2023年11月11日（土）

13:00～16:00

場所 小田原三の丸ホール 小ホール

参加費 無料

定員 300名（要事前申し込み）

聖学院大学教授 相川章子氏による基調講演の

ほかピアサポーターとして活躍している4団体の方々とのシンポジウムを行います。ピアの方々の活動が広がりますように、家族会も応援しましょう。皆様ご参加下さい！！

お申し込み等詳細は同封のチラシをご覧ください！！



## JR など運賃割引推進ニュース（みんなねっと）

南海電鉄は今年10月1日から、旅客運賃の改定に併せて精神障害者への割引を6月12日ホームページに発表しました。しかし、実施内容は100km以下の割引には、精神保健福祉手帳1級で介護者同伴の条件が付けられていました。

みんなねっとは8月10日南海電鉄本社で同伴条件の撤回を求めて話し合い、南海電鉄代表取締役社長 岡島信行氏に対し、みんなねっと理事長名で以下の要望書を提出しました。

### 「精神障害者割引の導入に関する要望書」

「100km以下の割引に対する介護者同伴の条件を廃止して単独での利用者も割引対象にして下さい」

この度は精神障害者に対する交通運賃割引の実施にご英断いただきありがとうございます。

南海電鉄の6月12日付ホームページでは、10月1日からの運賃改定に併せた精神障害者への割引の実施と割引制度の内容が掲載されています。通院や通所など日常生活で利用する100km以下を本人が単独で乗車した場合は、割引が適用されない制度となっています。一般企業で働ける精神障害者は少なく、所得は障害年金のみの人が大半です。中には無年金の人もあります。

南海電鉄が率先して精神障害者への運賃割引を実施されることは、感謝の念に耐えません。

家族に負担をかけないために外出を控えている精

神障害者にとって、外出の機会が増やせると期待している精神障害者とその家族の期待を裏切らないためにも 100 km以下の同伴条件を撤廃し、101 km以上と同じく全ての手帳所持者を割引の対象にしてください。そして、精神障害者への割引適用が実感できるように見直して下さい。（一部削除）

以上

今 関東地方でも、京王線、東急電鉄、JR 東日本等で割引の動きが出てきています。今後の動きを注視していきましょう。



## 身体拘束「なぜ心が痛むの？」 「地域で見守る？あんだ、できんの？」 精神科病院協会・山崎学会長に直撃したら・・・

東京新聞 7 月 7 日号に上のような見出しで驚くような記事が載っていました。以下、単独インタビューの内容を抜粋して転載します。

皆様これを読んでどう思われますでしょうか。

- ・まずは身体拘束。年間 1 万件超の拘束がある。
- 「基本的にはね、精神保健福祉法に則った拘束なわけ。それについて何だかんだ言うのは変だと思うよ」
- ・厚労省では拘束要件を見直す議論が進む。医師の裁量が増え、拘束件数が増える懸念を示す声がある。
- 「議論が進むのはいいが、現場としては、粛々と法律に沿った形で拘束する。当然じゃない？」
- ・過去 20 年で拘束件数は 2 倍に増えた。
- 「増えた増えたって言うけれど、厚労省が発表しているのは数だけ。病名や性別、発表していない

から、具体的にどういう疾患で拘束が増えたか何も分からないの」

・年齢や性別、疾患はこの場合関係ないのでは。

「関係なくないよ」

・どんな疾患でも拘束された事には変わりはない。

「中身の分析がなければ数字に意味がないって言うてるの。拘束の数だけ発表してるのって変。分析できないのに答えられない」

・そうでしょうか。

「精神科病院より一般医療での拘束の方が遙かに多い。知らないの？厚労省の班研究で施設内拘束って 6 万件あるんだぜ。そっちの拘束をなんで騒がないの？」（軽く机を叩く）「拘束しないで、患者さんが逆に自殺したとか、転倒骨折したとかの方が怖い。医師が適切に判断していることをね、診察もしたこともないきみが、あーだこーだって言うのって変だと思わない？」「こっちだってね、好きで拘束やってんじゃない。拘束したら、監査の時にカルテを全部ひっくり返して見られてね、しかも診療報酬全くついてないんだよ、あれ」

・山崎氏は拘束する権限を持つ精神保健指定医だ。

「拘束？ してますよ」

・心は痛まないのか

「はあ？ 治療の一環で拘束しているわけで、それを全部現場を知らない君が土足で入ってきて、心痛みませんか？何なの？失礼だよ」

・取材で心痛める精神科医に多く出会ってきた。

「僕はそんなふうには考えない。適切に法律で決まっている。患者さんの安全を考えて拘束して、なぜ心が痛むの？ しないことで、もっと変な結果が出る方がおかしいじゃないか」

・当事者は拘束しないでほしいと強く望んでいる。

「できないね。拘束して治療のプログラムに乗せるのが今の法律の建前だ」

・なぜ、日本だけこんなに拘束件数が多いのか。

「海外は入院させないからだ。デポ剤（持続性注射剤）打って帰しちゃう。入院が少ないから拘束数も少ないんだよ」

・じゃあ日本も今後は病院ではなく、地域で見守る体制に本腰を入れるべきだ。

「地域で見守る？誰がみてんの？あんたできんの？きれいごとと言って、結局全部他人事なんだよ」

・確かに社会資源が少ない。

「障害年金たった年間70万円で、どうやって地域で生活させるの？できないよ。働けないんだぜ」

・社会構造も変えないと。

「変わんねえよ！ 医者になって60年、社会は何も変わんねえんだよ。みんな精神障害者に偏見持って、しょせんキチガイだって思ってたんだよ、内心は」

・山崎氏もそう思うのか？

「ぼくは親父の病院を継いで2代目だ。小さい時から、閉鎖病棟で患者さんに遊んでもらって育った。たまたま不幸で病気になっちゃった人って思っている」

・精神科病院に入院し続ける事は幸せなのか。

「そう思うよ、ぼくは。地域で、アパートで一人暮らししながら、明日の事も分からず生活するのと、病院の4人部屋で皆でご飯食べるのと、どっちがいいかって言ったら、僕は病院を選択するよ」

・30年入院してても？

「出してどうすんの？ 地域でマンツーマンで診ればいいが財源も人もいない。支えているのはいつもボランティアじゃねえか」

・国連障害者権利委員会は昨秋、日本の精神科医療での強制入院を問題視し、根拠法の全廃を勧告した。

「余計なお世話だよ」

・勧告は重くないのか。

「重くないね全然。国連がそんなに権威のある機関だと思ってないもん」

・滝山病院（東京都）事件など虐待は起きている。

「滝山への入院は全部他院からの紹介だ。透析患者や難しい案件の患者をなぜ公立病院がやらないんだ。それを言えよ」

・来年は診療報酬に加え障害報酬や介護報酬といったトリプル改定になる。

「精神科も診療報酬を一般診療報酬並みにと訴えているが、全然だめ。精神科医療報酬は入院が9割。診療報酬の構造が違うわけ」

・先月、山崎氏は日精協の会長に再任した。8期目だ。なぜ会長職に留まるか。

「精神科医療をなんとかしたいと思っている。財源がつかないとしょうがないでしょ」。

これに対し、身体拘束に詳しい池原毅和弁護士は「拘束して治療のプログラムにのせる」と言う言葉を問題視し、また 日本障害者協議会の藤井克徳代表は「人権感覚はなく、国際規範すら切り捨てる。これが、この国の精神科医療のトップの発言で、暗澹たる気持ちになる。こうしたリーダーを選び続ける日精協自体が問われる」と指摘しています。

（まとめ 谷田川）

精神保健福祉ボランティアグループ

## こんぺいとうのお知らせ

9月30日（土）11:00～ サロン 参加費 200円

福祉会館第3会議室・調理室

10月14日（土）13:30～お茶会 参加費 100円

福祉会館いこい室

10月21日（土）13:30～ 定例会

市民活動センターC会議室

10月28日（土）11:00～ サロン 会場未定